未来へつなぐ
30年のありがとう

－盛岡市動物公園開園30周年記念誌－



公益財団法人　盛岡市動物公園公社

●表紙の写真は、アフリカゾウ「マオ」の歓迎式（平成18年7月9日撮影）





目　次

挨拶
02 | 髙　濱　康　亘　理事長

03 | 谷　藤　裕　明　盛岡市長

04 | 設立趣意書

05-36 | 第１章　主な出来事（昭和63年度まで～令和元年度）

第２章　あの日あのとき

37 | 盛岡市動物公園のひとつの節目に寄せて
小　山　和　良

39 | 「動物公園建設事務室」の思い出
宮　田　　晃

40 | キリンたちとの日々
鈴　木　貴　久

41 | アフリカゾウ「たろう」と「はなこ」の物語
小　野　　康、竹　花　秀　樹

42-53 | 第３章　園内概要

54-55 | 第４章　教育普及活動

56-57 | 第５章　動物公園で働く人たち

58 | 第６章　公社最後のゴールデンウイーク

59 | 第７章　再生計画

60 | 編集後記









御挨拶



公益財団法人盛岡市動物公園公社

理事長　髙　濱　康　亘

盛岡市動物公園は、盛岡市が昭和 50 年、盛岡市議会からの動物園に関する調査結果の報告を受け、その後、各種の調査や議論を重ね、建設工事や展示動物の手配などの準備を経て、市制施行 100 周年の平成元年に、「自然の緑地と動物が結びついた家族ぐるみのレクリエーションの場」「実物の動植物を理解し、自然認識を高める社会教育の場」として、開園したものであります。

開園の前年に当たる昭和 63 年には、この動物公園の管理運営を行う受け皿として、市が 100 パーセント出資する財団法人盛岡市動物公園公社が設立され、以来、当公社がこの動物公園の管理運営を担ってまいりました。この間、地方自治法や民法などの改正により、受委託形態の変更や特例民法法人から公益財団法人への移行など大きな制度の変遷があったものの、30 年にわたりこの動物公園の適切な管理運営に努めてきたところであります。

この 30 年の歩みの中では、平成３年のアフリカ園の開園が大きな出来事であり、待望したアフリカゾウやキリンなどの大型動物が多くの皆様に迎えられ、ライオンの三つ子の赤ちゃんが話題となり、キリンの赤ちゃんの成長に注目が集まりました。一方、平成 13 年にアフリカゾウが難産のため母子共に死亡したことは、悲しい出来事として記憶されております。タヌキやキツネ、リスなど盛岡ならではの動物たちやサル山のニホンザルの姿が多くの方々を癒し、遠足で来園する子供たちの声が響き、親子連れの笑顔が見られる子供動物園は世代を超えて親しまれてきました。

動物公園を取り巻く社会環境は、建設当時に比べ大きく変化し、少子化・高齢化、レジャーの多様化などの影響による入園者の減少や施設・設備の老朽化、市の財政負担の軽減などへの対応が喫緊の課題となっており、動物公園の存続には新たな視点での管理運営が必要となっております。

今般、市において、民間活力の導入によって動物公園の再生を図ることとし、令和２年度からは、第三セクターの運営会社に動物公園の管理運営を引き継ぐこととされたところであり、当公社は、令和２年３月 31 日をもって解散することとなりますが、今日に至るまで、関係各位の御支援・御協力の下、財団法人、公益財団法人としての一定の使命を果たせたものと考えております。

本書は、盛岡市動物公園開園 30 周年を迎え、また当公社解散に当たり、この 30 年間をたどる記録誌的な記念誌として編集したものであります。市民の皆様、559 万人の来園者の方々、御支援・御協力をいただいた関係各位に、深く感謝申し上げるとともに、リニューアルする新動物公園に変わらぬ御愛顧くださるようお願い申し上げ、発刊の御挨拶といたします。

盛岡市動物公園開園30周年を迎えて



盛岡市長　谷　藤　裕　明

盛岡市動物公園は、平成元年４月22日に開園し、平成31年４月で開園30周年を迎えました。

この記念すべき節目の年を迎えることができましたのも、盛岡市民をはじめ国内外からの多くの来園者の皆様や、動物の飼育、繁殖等で御協力をいただいている国内の動物園、大学等の専門機関、管理運営を担っている公益財団法人盛岡市動物公園公社、運営のお手伝いをしていただいている盛岡市動物公園友の会をはじめ関係者の皆様の多大なる御協力、御支援のおかげであり、心より感謝申し上げます。

この動物公園は、盛岡市市制施行100周年を記念し、自然と緑地と動物が結びついたレクリエーションの場として、また、動植物を理解し、自然認識を深める社会教育の場として整備したものです。約100種の動物をアフリカ園、ビクトリアコーナー、日本生態園、鳥類ゾーン、子供動物園、草原ゾーンの６つのゾーンに分け、多くの来園者が身近に動物に触れ合え、楽しめる展示や催物の企画に取り組んでまいりました。

豊かな自然に囲まれ、新緑や紅葉など四季を通じて見られる岩山の美しい自然の中で、たくさんの動物たちが展示されている動物公園は、県内外からの旅行や遠足で来園する子供たちの声が響き、毎週末のイベントでは家族連れの笑顔が見られるなど、多くの市民や来園者の皆様に愛され、世代を超えて親しまれております。

一方で、開園当初は年間約26万人を記録した来園者は、近年では約17万人前後で推移し、減少傾向となっております。また、施設や設備が老朽化しており、今後も動物公園を運営するためには施設の改修と行政負担を抑えた持続可能な運営手法が必要となっております。こういった背景から、本市では、令和元年10月に盛岡市動物公園再生事業計画を策定し、「人と動物と自然が、共生する動物公園～人と動物が参加する、新しい福祉の形～」をコンセプトに、より日常的に楽しめる動物公園へと再生するため、第三セクターとなる新たな運営会社を設立しました。

令和２年度からは、動物公園の運営がこの新たな運営会社に引き継がれるとともに、併せて、獣舎や園路等の改修工事を進め、令和３年度後半にはリニューアルオープンをする予定としております。リニューアルオープン後は、公民連携によるセミナーハウスやレストハウスのリノベーション等を行い、市民や来園者の皆様のニーズに応え、「また訪れたい」と思っていただける動物公園を目指し生まれ変わってまいります。

結びに、盛岡市動物公園の発展のため、関係各位の今後の益々の御支援、御指導を賜りますようお願い申し上げますとともに、これまで以上に多くの方々に御来園いただきますよう祈念し、盛岡市動物公園開園30周年を迎えての御挨拶といたします。

財団法人盛岡市動物公園公社
設 立 趣 意 書

近年の市街地の進展や、生活様式の変化によって、市民生活や、環境から、自然が失われてきており、自然への渇望と、人間性の回復が求められ、大規模公園、動植物園等、自然を対象とした施設の整備が社会的に要求されてきております。盛岡市は、このような状況を踏まえて、自然の緑地と動物が結びついた、家族ぐるみのレクリェーションの場、実物の動植物を理解し、自然認識を高める社会教育の場として、岩山南公園を企画し、整備を図ってまいりました。

財団法人盛岡市動物公園公社は、このような建設の趣旨を踏まえ、岩山南公園内に開設される動物公園の効率的管理運営を行うとともに、併せて動植物等に関する調査研究を行い、その成果を広く社会に還元することを目的として設立しようとするものであります。

昭和 63 年３月３日

財団法人盛岡市動物公園公社
設立者　盛岡市
代表者　盛岡市長　太　田　大　三

第1章 主な出来事

いろいろな動物たちが生まれ、死に、入退園していきました。さまざまなイベントも企画、開催しました。その陰には、職員たちの奮闘もありました。主な出来事を振り返ります。（飼育動物数は年度末現在）

昭和63年度（1988年度）まで


開園5カ月前の現地見学会でにぎわう子供動物園＝昭和63年11月3日


工事中のサル山周辺＝昭和63年12月5日


子供動物園遠景＝昭和63年12月5日


開園を1カ月後に控え、マスコミの取材を受ける飼育員＝平成元年3月23日

【動物公園】

昭和50年度	盛岡市議会市政調査会が市に、動物園に関する調査結果を報告
昭和53～55年度	学童・市民意識調査、適地選定調査など実施
昭和56年度	基本計画策定。用地取得着手
昭和57年度	基本設計策定
昭和58年度	造成・造園工事に着手
昭和61年度	動物舎建設着手。子供動物園完成
昭和62年度	草原ゾーン、飼育管理事務所、動物資料館完成。財団法人盛岡市動物公園公社設立発起人会。公益法人設立許可。公社発足
昭和63年度	日本生態園、鳥類ゾーン、ビクトリアコーナーなど完成。盛岡パイロットクラブが花壇寄贈

【盛岡】

昭和58年度	市子ども科学館開館
昭和60年度	市とカナダ・ビクトリア市が姉妹都市提携締結
昭和61年度	盛岡手づくり村オープン
昭和62年度	市先人記念館オープン
昭和63年度	1993年アルペンスキー世界選手権大会の開催地に「盛岡・雫石」が選ばれる

【岩手 & 国内外】

昭和56年度	三陸鉄道株式会社発足
昭和57年度	東北新幹線開業
昭和63年度	新日鉄釜石の第１高炉の火が消える 昭和天皇崩御、平成に改元

平成元年度（1989年度）





▲開園式でくす玉を割る
＝平成元年4月22日

◀約５カ月で入園者が20万人に
＝平成元年9月15日



開園直後、ヤギを抱えて喜ぶ少女 ＝平成元年4月22日



園内を散歩するニホンツキノワグマの赤ちゃん＝平成元年8月13日

【動物公園】

4月6日	ビクトリア市からカナダカワウソとピューマ各2頭受贈。21日にはオオツノヒツジ2頭も
4月22日	盛岡市動物公園開園
4月23日	「どうぶつだいすきクラブ」スタート
5月14日	市民植樹祭
5月30日	入園者10万人に到達
8月8~10日	サマースクール。小・中学生が１日飼育係を体験。以降、毎年開催
8月31日	盛岡市森林組合がログハウス１棟寄贈
9月15日	入園者20万人に到達
9月29日	アフリカ園着工
11月19日	シンボルマーク発表
3月26日	盛岡山草同好会が高山植物園を植栽

入場者数	264,162人
飼育動物数	77種416点

【盛岡】

- 市制100周年
- 岩山散策路開設
- 岩手公園が日本の都市公園100選に
- もりおか讃歌フェスティバル開催
- 100年後開封のタイムカプセル完成
- 国際交流基金創設
- 市アイスアリーナ落成

【岩手 & 国内外】

- 消費税導入。税率は３％
- 中国・天安門事件。民主化運動弾圧
- 参院選でマドンナ旋風。与野党逆転
- 小沢一郎氏が自民党幹事長、志賀節氏が環境庁長官に
- ドイツ・ベルリンの壁崩壊
- 「セクシュアル・ハラスメント」が流行語に

平成2年度（1990年度）


友の会発足＝平成2年4月15日


夜の動物観察会＝平成2年7月28日


1カ月後に愛称が「ラッキー」と「ララ」に決まるヒトコブラクダ＝平成2年8月15日


初めての動物慰霊祭＝平成2年9月26日

【動物公園】

4月15日	動物公園友の会発足
4月18日	秋田県鹿角市の八幡平クマ牧場から雌のニホンツキノワグマ「月美」入園
5月8日	入園者30万人に到達
9月1～20日	ヒトコブラクダの愛称募集。雄は「ラッキー」、雌は「ララ」に
9月5日	雌のアメリカバイソン繁殖
9月26日	初めての動物慰霊祭。慰霊碑を建立、園内で死亡した動物の霊を慰める。以後毎年、動物愛護週間に開催
10月12日	仙台市八木山動物公園からオオタカ2羽受贈
12月18日	秋田市大森山動物園からオシドリ雄1羽・雌2羽受贈

入場者数	167,777人
飼育動物数	74種 437点

【盛岡】

- 高松公園が日本さくらの会主催の「さくら名所100選」に選ばれる
- アルペンスキー世界選手権盛岡・雫石大会組織委員会発足
- 市河南公民館・盛岡劇場落成。こけら落としは松本幸四郎・市川染五郎歌舞伎公演
- 北山オリエンテーリングコース開設
- 手づくり村の入場者500万人達成

【岩手 & 国内外】

- 株価急落、バブル経済崩壊へ
- 宮古短大開学
- 東西ドイツ統一
- 六原駅（金ケ崎町）で県内初の過激派事件起きる
- 湾岸戦争勃発

平成3年度（1991年度）


平成3年4月に入園した3頭のシロオリックス


オープンしたアフリカ園のキリン舎前＝平成3年7月


中国長治市から寄贈されたアカゲザル＝平成3年11月18日


入園したばかりの2頭のアフリカゾウ＝平成3年11月26日

【動物公園】

4月16日	東京都多摩動物公園からシロオリックス雄１頭・雌２頭受贈
6月5日	入園者50万人に到達
6月9日	チャップマンシマウマ雄１頭・雌２頭入園
6月21日	ダチョウ雄１羽・雌２羽入園
6月23日	ライオン雄・雌各１頭、雌のシロサイ入園。26日には雄のシロサイも
7月2日	キリン雄・雌各１頭入園。愛称は「ラガー」「リリー」に
7月26日	アフリカ園開園
11月14日	アフリカゾウ雄・雌各１頭入園
11月18日	中国長治市からアカゲザル雄・雌各１頭受贈

入場者数	231,542人
飼育動物数	82種 464点

【盛岡】

- 都市型ＣＡＴＶの放送開始
- 盛岡市・都南村合併問題協議会発足
- 暴力団追放盛岡市民会議結成
- 松園二丁目で、燃えないごみの分別収集スタート
- 第１回盛岡劇場創作舞台公演「ＫＥＮＪＩ」が上演される

【岩手 & 国内外】

- 北上、和賀、江釣子の３市町村が合併
- 知事に工藤巌氏
- 長崎の雲仙・普賢岳で火砕流発生
- ソ連解体
- 高橋克彦氏が直木賞受賞
- アルベールビル冬季五輪（仏）のノルディック複合団体で、三ケ田礼一選手が金メダル獲得

平成4年度（1992年度）


生まれたばかりのチャップマンシマウマ（右）＝平成4年4月6日


オオツノヒツジの親子＝平成4年4月24日


園内オリエンテーリング＝平成4年6月7日


カワウソ舎前で記念写真を撮る、ビクトリア市からの一行＝平成4年9月9日

【動物公園】

4月2日	雌のチャップマンシマウマ繁殖
5月12日	アフリカゾウの愛称発表。雄は「たろう」、雌は「はなこ」
6月7日	園内オリエンテーリング。友の会主催で、指定された順に動物を見て回り、クイズに答える。翌年から毎月第２土曜日（年８回）実施に拡大
6月11日	ニホンカモシカ雄・雌各１頭繁殖
8月7日	入園者80万人に到達。盛岡農業高生９人が飼育実習。以後随時、飼育実習性を受け入れる
9月9日	ビクトリア市長来園
10月18日	ライオン雌３頭繁殖

入場者数	229,740人
飼育動物数	80種 532点

【盛岡】

- 盛岡市と都南村が合併
- 市指定有形文化財「御蔵」の一般公開始まる
- テレビ都南の本放送スタート
- 「盛岡城址・中津川周辺地区」が建設省の都市景観大賞・都市景観100選に
- 市役所の土曜閉庁完全実施
- 市保護庭園「一ノ倉邸」一般開放開始
- 盛岡国際交流協会設立
- アルペンスキー世界選手権盛岡・雫石大会開催

【岩手 & 国内外】

- 育児休業法施行
- 三陸・海の博覧会開催
- 山形新幹線開業
- 自衛隊がカンボジアにＰＫＯ派遣

平成5年度（1993年度）



愛称が発表されたライオンの赤ちゃん3頭の似顔絵＝平成5年5月23日



入園者100万人達成＝平成5年7月2日


サマースクールで餌作りをする子供たち＝平成5年7月27日


ライオン一家の日向ぼっこ＝平成5年10月7日

【動物公園】

4月2日	オグロプレーリードッグ繁殖。雄４頭・雌１頭が成育
5月23日	ライオン一家の愛称を発表。父「ガオー」、母「ライラ」、子供「ウメ、モモ、サクラ」
7月2日	入園者100万人に到達
7月18日	麻布大の学生が獣医実習。以後随時、獣医実習生を受け入れる
8月13~22日	パネル展「守ろう かけがえのない自然」開催。ラムサール条約釧路会議にちなんだパネルを展示し解説

入場者数	219,435人
飼育動物数	78種 524点

【盛岡】

- 市都南文化会館・都南公民館開館
- ビクトリア市の中学生ら13人が来盛、交流深める
- 夕顔瀬橋の架け替え工事完了
- 盛岡駅西口地区土地区画整理事業の事業計画正式決定
- 市内中学生10人がビクトリア市で研修

【岩手 & 国内外】

- 花巻空港で航空機が着陸失敗し炎上
- 大河ドラマ「炎立つ」放映
- 非自民の細川政権誕生
- Ｊリーグ開幕
- 皇太子さまご成婚
- 国民文化祭いわて開催
- ＥＵ発足
- 小選挙区制導入の政治改革関連法成立

平成6年度（1994年度）


5月に「ほし」「ひめ」と名付けられたピューマ＝平成6年4月14日


オオツノヒツジの家族＝平成6年5月24日


生まれて24日目のライオンの赤ちゃん＝平成6年9月3日


ペアリングを始めたシロサイ＝平成6年10月

【動物公園】

4月13日	ライオン「ウメ、モモ、サクラ」を多摩動物公園へ譲与
5月15日	ピューマの愛称発表。雄は「ほし」、雌は「ひめ」
8月10日	ライオン雄１頭・雌２頭繁殖
9月28日	八木山動物公園からハクビシン雄・雌各１頭移管
2月14日	アカカンガルー雄１頭・雌２頭入園
3月1日	ピグミーゴート雄１頭・雌４頭入園

【盛岡】

- 盛岡西消防署、盛岡南消防署の新庁舎落成
- 市西部公民館開館
- 名水「御田屋清水」復活
- 材木町コミュニティ道路が建設省の手づくり郷土賞受賞
- 盛岡広域圏首長会議の初会合開かれる
- 皇太子殿下ご成婚記念「愛宕山記念公園」完成
- 中ノ橋通優良再開発ビル「中ノ橋106ビル」オープン

【岩手 & 国内外】

- 自社さ連立の村山政権発足
- 名古屋空港で中華航空機事故
- 阪神大震災
- 地下鉄サリン事件

入場者数	192,887人
飼育動物数	72種 442点

平成7年度（1995年度）



▲トンボ探検隊＝平成7年7月2日



生まれたばかりの雄のヒトコブラクダ▶
＝平成7年8月7日

【動物公園】

5月14日	シロサイの愛称を発表。雄は「サイスケ」、雌は「サイカ」
5月18日	大森山動物園からテン雄１頭、インドクジャク雄１羽を受贈
6月19日	ライオン３頭を多摩動物公園へ譲与
8月7日	雄のヒトコブラクダ繁殖
9月2日	ライオン雄３頭繁殖
10月7日	雄のオオツノヒツジ繁殖。初めて成育
11月17日	入園者150万人に到達
2月1日	キリン「ラガー」死亡
3月6日	八木山動物公園からチョウゲンボウ雄・雌各１羽受贈
3月19日	群馬サファリパークからラマ雄・雌各１頭入園

入場者数	206,282人
飼育動物数	77種 432点

【盛岡】

- 資源ごみの分別収集が市内全域に拡大
- 市東京事務所開設
- 新庄浄水場が完成、通水開始
- 市子ども科学館の入館者200万人達成
- 市長選で桑島博氏初当選
- 前九年・後三年の役サミット開催
- 盛南開発着工
- 盛岡文士劇が33年ぶりに復活

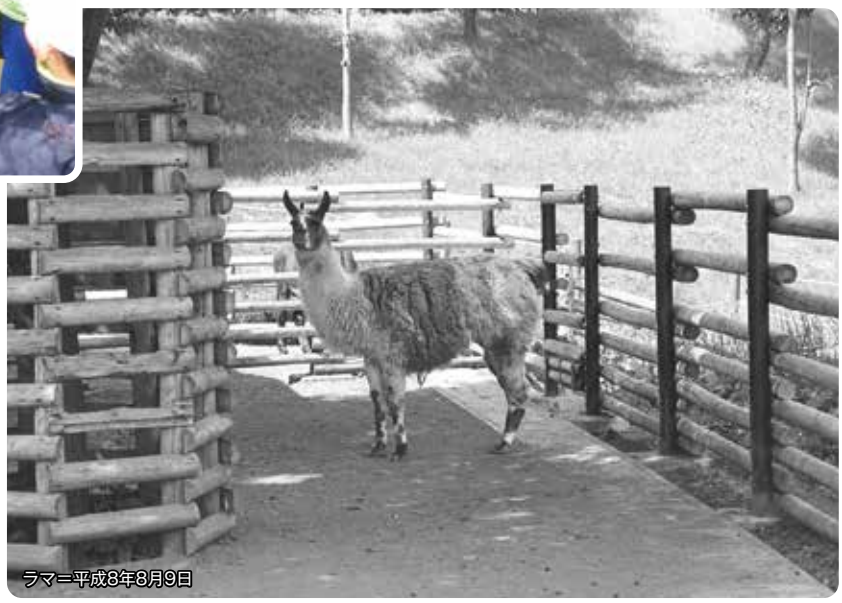
【岩手 & 国内外】

- 知事に増田寛也氏
- ユーゴスラビア内戦、岩手県人母子救出
- ウィンドウズ95発売、インターネットが普及
- 野茂英雄投手が米大リーグ新人王に
- 米国とベトナムが国交樹立
- 薬害エイズで厚労相が患者に謝罪

平成8年度（1996年度）


オタマジャクシ探検隊＝平成8年4月21日




ラマ＝平成8年8月9日

【動物公園】

4月2日	埼玉県こども動物自然公園からミニブタ雄1頭・雌2頭受贈
6月10日	中津川ライオンズクラブからグリーンプロット贈られる
7月3～5日	第37回日本動物園水族館教育研究会で、片岡美紀技師が「盛岡市動物公園における動物教室（団体指導）の実施内容とこれまでの経過について」を発表
8月16日	ヨーロッパフラミンゴ繁殖
9月28日	雌のラマ繁殖。雌のカナダカワウソ入園
10月10日	ラマの愛称を発表。父「ムー太」、母「ラー子」、子供「ムーチョ」
11月6日	雌のアカカンガルー繁殖

入場者数	195,983人
飼育動物数	76種 433点

【盛岡】

- 盛岡競馬場オーロ・パークがオープン
- 新盛岡体育館、市弓道場、市都南図書館が開館
- 70歳以上の高齢者を対象とするバス料金助成制度が本格的にスタート
- 手づくり村の入場者数が1000万人達成
- 深沢紅子野の花美術館がオープン
- 盛岡地域の電話番号の市内局番が3桁に変わる
- 岩手公園のトーテムポールに落書き

【岩手 & 国内外】

- 米軍普天間飛行場移設で日米合意
- 宮沢賢治生誕100年ブーム
- 奥産道自然破壊で県警が県を書類送検
- ペルー日本大使公邸人質事件
- 秋田新幹線開業

平成9年度（1997年度）





友の会での「鳥の飛行機を作ろう」ー平成9年11月30日

【動物公園】

4月24日	八木山動物公園から雌のオオタカ借り受け
5月26日	ミニブタ雌２頭繁殖
6月2日	大森山動物園からオオコノハズク１羽移管
9月20~28日	「滅りゆく森の生きものたち」開催。パネルで絶滅危惧の生物を紹介
11月20日	群馬サファリパークから雌のライオン入園
3月23日	八木山動物公園からハヤブサ１羽移管

入場者数	183,326人
飼育動物数	75種 425点

【盛岡】

- 市立太田テニスコート、志波城古代公園がオープン
- 盛南大橋開通
- 初めての「みちのく国際ミステリー映画祭」が開かれる
- ペットボトルの分別収集・飲料用紙パックの店頭回収始まる
- マリオス開業

【岩手 & 国内外】

- 石鳥谷町、紫波町で大規模山林火災
- 神戸・連続児童殺傷事件で中３逮捕
- アジア通貨危機で世界同時株安
- 秋田道開通
- ダイアナ元英皇太子妃が事故死
- 山一証券が自主廃業
- 長野冬季五輪

平成10年度（1998年度）



多摩動物公園からやって来たキリン＝平成10年5月26日


園内で初めて繁殖したオオタカ2羽＝平成10年7月10日


入園者200万人達成＝平成10年8月16日

【動物公園】

5月26日	多摩動物公園から雄のキリン入園。ペアでの展示再開
5月31日	オオタカ２羽繁殖
6月9日	第39回日本動物園水族館教育研究会で、木村憲司主任技師が「当園の友の会活動の経過について」を発表
6月16日	全国動物園外郭団体連絡会総会・協議会が盛岡市内で開催
6月30日	開園時から飼育されていた雄のニホンカモシカ死亡
8月16日	入園者200万人に到達
10月10日	雄のキリンの愛称を「リック」と発表
11月10日	開園直前に入園したピューマ「ほし」死亡。翌年1月20日には「ひめ」も

入場者数	168,598人
飼育動物数	77種 464点

【盛岡】

- 市民文化ホールがオープン
- 市クリーンセンター本格稼働
- 「映画館通り」の電線類地中化と歩道の消雪工事始まる
- 工藤巌元市長死去
- 新三馬橋開通
- 全国中学校スケート・アイスホッケー大会開催

【岩手 & 国内外】

- 県立大開学
- 岩手山の火山活動活発化
- 「若貴」兄弟横綱に
- ＮＰＯ法施行
- 岩手競馬所属のメイセイオペラがＧ１制覇
- 臓器移植法による初の脳死移植

平成11年度（1999年度）



▲開園10周年でくす玉割り
＝平成11年4月29日



もちをまき、開園10周年を祝う▶
＝平成11年4月29日



開園の日に生まれた盛岡市の小学生2人が、10周年で一日園長を務める＝平成11年5月30日



長寿のアライグマを表彰＝平成11年9月15日

【動物公園】

4月29日	10周年記念式。バイソン前広場に植樹
5月30日	動物公園開園の日に生まれた盛岡市内の小学生２人が１日園長を務める
8月1日	10周年記念まつり。餌運び競争などで盛り上がる
9月15日	敬老の日にちなみ、長寿のアライグマとシロオリックスに餌をプレゼント
9月19日	９年11月入園の雌ライオン死亡。赤ちゃん２頭（雌）も死産
9月26日	大人のための動物公園体験セミナー。小・中学生対象の１日飼育係体験を高校生以上に拡大し開催
10月28日	東京都恩賜上野動物園から雌のオオタカ受贈

入場者数	166,720人
飼育動物数	82種 482点

【盛岡】

- 当番制の小児救急入院受入病院の制度始まる
- 盛岡駅の東西を結ぶ高架橋が開通
- 盛岡南公園球技場、市立総合プールがオープン
- 新市立病院開院
- 仙北西地区の新住居表示実施
- 盛岡西バイパスが一部開通

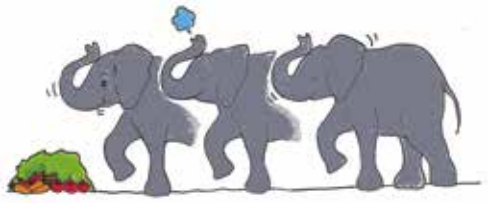
【岩手 & 国内外】

- 岩手インターハイ
- 茨城県東海村で臨界事故
- 県北に豪雨、軽米町に災害救助法適用
- 岩手・青森県境での産廃不法投棄発覚
- 「ハリー・ポッターと賢者の石」日本語版刊行
- ロシア大統領にプーチン氏

平成12年度（2000年度）


サマースクールに参加した子供たち＝平成12年8月


冬期特別開園で前月に生まれたキリンの赤ちゃんを公開＝平成13年1月12日



【動物公園】

7月20日	カナダからピューマ雄・雌各１頭入園
7月29日～8月6日	「身近に見られる生き物展」で、昆虫や両生類、は虫類などを展示し紹介
10月26、27日	第10回ゾウ会議で、木村憲司主任技師と小野康技師が「アフリカゾウの飼育経過について」を発表
12月5、6日	第48回動物園技術者研究会で、鈴木和美獣医師が「２頭のピューマにみられた慢性腎不全を伴う上皮小体腫瘍による死亡例」を発表
12月17日	雄のキリン繁殖。初めて成育。年明けの特別公開に来園者多数
12月19日	上野動物園から雄のフェネック受贈
3月25日	新サイ・フラミンゴ舎完成

入場者数	170,064人
飼育動物数	83種 521点

【盛岡】

- 都心循環バス「でんでんむし」の本格運行始まる
- 「プラザおでって」オープン
- 前九年三丁目と大新町をつなぐ「ふれあい橋」完成
- 中津川が「甦る水100選」で建設大臣表彰を受ける
- 茨島こ線橋の架け替え・拡幅工事が一部終了

【岩手 & 国内外】

- 介護保険制度スタート
- 山形村出身の栃乃花新入幕、三役昇進
- 雪印乳業製品で食中毒
- 東京・三宅島噴火で全島避難
- 三陸町気象ロケット観測所で最終打ち上げ

平成13年度（2001年度）


上野動物園からやって来たフェネックの愛称が「テト」に決定＝平成13年4月15日


多摩動物公園から受贈した雌ライオンの愛称が「レオナ」に決定＝平成13年9月30日


園内の自然を調査する友の会のメンバーたち＝平成13年11月4日


前月に生まれたアフリカタテガミヤマアラシの赤ちゃん＝平成14年2月15日

【動物公園】

4月8日	フェネックの愛称は「テト」に
4月15日	キリンの仔の愛称「リッキー」と発表
4月17日	宇都宮動物園からアフリカタテガミヤマアラシ２頭受贈。愛称は雄が「ツンツン」、雌が「チクチク」に
7月7日	アフリカゾウ「はなこ」、難産で死亡
7月30日	保護されたムササビを受け入れる。愛称は「夢々（ムム）」に
8月1日	群馬サファリパークから雌のライオン入園
9月26日	多摩動物公園から雌のライオン受贈。愛称は「レオナ」
12月1日	雄のタイリクモモンガ受贈
1月12日	雌のアフリカタテガミヤマアラシ繁殖

【盛岡】

- 移転新築の市中央卸売市場が落成
- 旧第九十銀行の建物が岩手銀行から市に寄贈される
- 盛岡の南部煎餅が「環境省のかおり風景100選」に選ばれる
- 肴町の市立屋内プール閉鎖
- 市余熱利用健康増進センター「ゆぴあす」オープン
- 市立高校が全国高校選抜大会の新体操男子団体で優勝

【岩手 & 国内外】

- 小泉政権発足
- 釜石シーウェイブス発足
- 映画「千と千尋の神隠し」公開
- 米中枢同時テロ。米がアフガン攻撃
- 大船渡市に三陸町編入

入場者数	202,483人
飼育動物数	94種 567点

平成14年度（2002年度）


キリン「リッキー」のお別れ会＝平成14年4月21日


ピューマの赤ちゃんの臨時公開＝平成14年7月14日


▲キリン「リリカ」の名付け親来園
＝平成14年7月14日


来園したピューマの名付け親▶
＝平成14年8月18日

【動物公園】

4月21日	伊豆バイオパーク（現伊豆アニマルキングダム）に行くキリン「リッキー」のお別れ会
6月5日	ピューマの赤ちゃん４頭誕生（うち１頭は２日後死亡）。３頭の愛称は「ピカ」「ピコ」「ピピ」、父は「ピュータ」、母は「ピューコ」に
6月21日	雌のキリン繁殖。愛称は「リリカ」に
7月7日	ライオン雌２頭繁殖。母と子の愛称は「クイーン」「ナナコ」「ナナエ」に
9月19日	ショウガラゴ雄・雌各１頭入園
9月17日	新ゾウ舎完成
2月26日	雄のカナダカワウソ入園

【盛岡】

- 盛岡広域フィルムコミッション設立
- 台風６号による記録的大雨で災害発生
- 啄木新婚の家に銀座の柳が植えられる
- 市と米国アーラム大の教育交流30周年記念式典
- 盛岡市と矢巾町、滝沢村の合併協議会設置請求書が、２万4459人の署名と一緒に提出される
- もりおか啄木・賢治青春館開館
- 東北新幹線盛岡―八戸間、IGRいわて銀河鉄道開業

【岩手 & 国内外】

- 日韓サッカーW杯開催。小笠原満男選手が出場
- アザラシ「タマちゃん」フィーバー
- 日朝首脳会談、拉致被害者５人帰国

入場者数	191,040人
飼育動物数	102種 587点

平成15年度（2003年度）


オタマジャクシ探検隊 ＝平成15年4月19日


アフリカタテガミヤマアラシ「チクリン」の名付け親来園＝平成15年6月15日


お別れ会で来園者から差し出されたササの葉を食べるキリン「リリカ」＝平成15年11月9日



【動物公園】

4月15日	鹿児島市平川動物公園から雌のオオタカ移管
4月26日	シロサイ「サイスケ」死亡
5月30日	雌のアフリカタテガミヤマアラシ繁殖。愛称は「チクリン」に
7月5日	東京都井の頭自然文化園から雌のフェネック受贈
11月9日	キリン「リリカ」のお別れ会
12月1～3日	第51回動物園技術者研究会で、丸山正樹技師が「動物園における体験型学習プログラムの開発・ツキノワグマの放獣と追跡デモンストレーション」を発表
12月19日	大森山動物園から雌のニホンイヌワシ「空」を借り受け

入場者数	173,977人
飼育動物数	103種 564点

【盛岡】

- 子育てと介護を支援する「ファミリーサポートセンター」オープン
- 旧八幡町番屋の望楼（火の見櫓）を上部に移設した八幡地区コミュニティ消防センターが開所
- 盛岡観光コンベンション協会発足
- 市先人記念館の入館者50万人到達
- 谷藤裕明氏が第19代市長に就任
- 市民がビクトリア市のマラソン大会に参加

【岩手 & 国内外】

- 個人情報保護法成立
- 三陸南地震、震度6弱
- イオン盛岡開店
- 地上テレビのデジタル放送開始
- イラク戦争、復興支援で自衛隊派遣

平成16年度（2004年度）


入園者300万人到達＝平成16年4月27日


飼育係のとびっきりガイド「ダチョウの卵を食べてみよう」＝平成16年6月13日


アルファベット動物工作会＝平成16年7月25日


サツマイモを収穫して動物にあげよう＝平成16年9月26日

【動物公園】

4月9日	多摩動物公園から雄のニホンイヌワシと、ワライカワセミのつがい受贈
4月27日	入園者300万人に到達
6月19日	開園時から飼育されてきたヒトコブラクダ「ラッキー」死亡
7月1日	１年間何度でも入園できる「パスポート券」販売開始
7月4日	ワライカワセミの愛称が「笑平」「笑子」に決定
10月16、17月	ショウガラゴ雄・雌各１頭繁殖。雌は18日死亡
11月7日	おびひろ動物園からアカカンガルー雄３頭・雌２頭受贈
1月28日	盛岡市岩山「見知・遊」振興会設立

【盛岡】

- 遺跡の学び館オープン
- もりおか啄木・賢治青春館が国の重要文化財に指定される
- 市立小・中学校と高校、幼稚園で全面禁煙開始
- 新しい冬のイベント「もりおか雪あかり」開催

【岩手 & 国内外】

- イラクで日本人が人質になり、「自己責任」論も
- 岩手山が６年ぶりに全面解禁
- 鈴木善幸元首相死去
- アテネ五輪平泳ぎで北島康介選手２冠
- インドネシア・スマトラ沖地震、インド洋大津波
- 冬季岩手りんどう国体

入場者数	163,344人
飼育動物数	102種 618点

平成17年度（2005年度）


中津川ライオンズクラブが植樹＝平成17年4月23日


毛刈りしたヒツジの毛で糸紡ぎ＝平成17年4月24日


キリン「リンリン」の名付け親来園＝平成17年5月8日


木の実落ち葉工作会＝平成17年10月30日

【動物公園】

4月3日	ショウガラゴ一家の愛称、父は「ショウタ」、母は「ショウコ」、子は「ショウ」に
4月15日	雌のキリン繁殖。愛称は「リンリン」に
5月12日	雄のラマ繁殖
6月15日	おびひろ動物園からアメリカワシミミズク２羽受贈
7月22日	マダガスカルヒルヤモリ３頭購入
12月8日	ワライカワセミ「笑平」死亡
12月15日	広島市安佐動物公園からケープハイラックス雄２頭・雌１頭受贈
2月18、19日	冬期臨時開園。人慣れしたタヌキ「たぬぽん」の園内散歩をする

入場者数	168,484人
飼育動物数	106種 598点

【盛岡】

- 市役所庁舎前などにハンギングバスケット設置
- 手づくり村の入場者が1500万人達成
- 盛岡駅地下自由通路の供用開始
- 紺屋町地区コミュニティ消防センター落成
- 盛岡市と玉山村が合併
- ＩＧＲ青山駅開業
- 不来方橋開通

【岩手 & 国内外】

- 兵庫・ＪＲ福知山線脱線事故
- 瀬戸内寂聴さん、天台寺住職を引退
- クールビズ始まる
- 八幡平市、西和賀町、洋野町、奥州市が誕生
- 日本の人口が戦後初めて減少

平成18年度（2006年度）


飼育係のとびっきりガイド「エミュー」＝平成18年5月27日


工作教室で押し花図鑑を作る子供＝平成18年6月4日


やって来たばかりのマオに餌を与える少女＝平成18年7月9日


展示公開が始まったピューマの赤ちゃん＝平成18年7月24日

【動物公園】

4月1日	業務委託制から指定管理者制へ移行。事務局長を園長に変更
5月29日	ピューマ４頭繁殖（うち１頭は翌日死亡）。３頭（雄）の愛称は「ユウマ」「フウマ」「ソウマ」に
6月2日	ライオン３頭繁殖（雌、うち１頭は20日死亡）。２頭の愛称は「モカ」「リオ」に
6月14日	多摩動物公園から雌のアフリカゾウ「マオ」を借り受け
11月15日	キリン「リック」を多摩動物公園へ返還
12月31日	ヒトコブラクダ「ララ」死亡
3月20日	愛媛県立とべ動物園から雌のヒトコブラクダ借り受け。愛称は「ヒトミ」に

【盛岡】

- 盛岡さんさ踊り第４の踊り「福呼（ふっこ）踊り」発表
- 原敬を想う会発足
- 盛岡一高に啄木の歌碑建立
- 第１回全国高校生短歌大会（短歌甲子園）開催
- 岩手公園開園100周年記念式典。愛称「盛岡城跡公園」が発表される
- 全国高校サッカー選手権大会で盛岡商が優勝

【岩手 & 国内外】

- 元日本陸軍兵士が63年ぶりに洋野町へ帰郷
- 第１次安倍政権発足
- 県競馬組合への巨額融資問題で、県議会が存廃を巡り議論

入場者数	176,251人
飼育動物数	103種 605点

平成19年度（2007年度）


キリン「リボン」の名付け親来園＝平成19年6月17日


ペインティングされた顔を鏡で見て笑う少女＝平成19年7月1日


動物愛護デーで、ケヅメリクガメの甲羅を洗う＝平成19年9月23日


冬期臨時開園でもちつき＝平成20年2月17日

【動物公園】

5月27日	雌のキリン繁殖。愛称は「リボン」に
7月1、4日	ワライカワセミ３羽繁殖（うち２羽は９日死亡）。１羽の愛称は「笑花（えみか）」に
10月7、8日	動物公園まつりで、初めてのバナナ早食い競争開催
10月10日	群馬サファリパークから雄のヒトコブラクダ入園。愛称は「ヒトシ」に
3月4日	大森山動物園から雄のライオン受贈。愛称は「キング」に
3月15日	大人の入園料が400円から500円、小人は200円から無料になる

入場者数	166,303人
飼育動物数	100種 584点

【盛岡】

- 高松公園開園100年記念でサクラ植樹
- 2571人がさんさ太鼓を同時演奏。「和太鼓同時演奏」のギネス世界記録に認定される
- 盛岡商工会議所と玉山商工会が合併
- ハンギングバスケット設置基数が日本一を達成
- 盛岡・ビクトリアU－15サッカー交流試合

【岩手 & 国内外】

- NHKテレビ小説「どんど晴れ」放映
- 知事に達増拓也氏
- 「消えた年金」問題発覚
- 憲法改正手続きを定めた国民投票法成立
- 熊本の病院が「赤ちゃんポスト」開設
- 総務相に増田寛也氏

平成20年度（2008年度）



▲絵画コンテストに出す絵を描く子供たち
＝平成20年9月14日



◀動物慰霊碑に手をあわせる来園者ら
＝平成20年9月23日

【動物公園】

4月20日	園内の坂道を走るシャトルカーの運行開始
6月2日	開園直前に入園した雌のオオツノヒツジ死亡
7月1日～9月30日	虫捕り網の無料貸し出しを始める。以後、毎年継続
7月4日	ワライカワセミ２羽繁殖
8月20日	雄のアメリカバイソン死亡
9月9日	ケープハイラックス雌２頭繁殖

入場者数	162,595人
飼育動物数	101種 585点

【盛岡】

- 盛岡市が中核市に移行
- 市保健所が神明町に開所
- 大慈清水・青龍水と中津川網取ダム下流が環境省の「平成の名水100選」に選ばれる
- 材木町よ市開催1000回記念イベント
- 啄木の妻・節子の生家の井戸が岩手大の植物園内に復元される
- 原敬記念館50周年記念式典

【岩手 & 国内外】

- 岩手・宮城内陸地震、最大震度６強
- 岩手北部地震、震度６弱
- リーマン・ショックで世界不況
- 米大統領選で初の黒人、オバマ氏当選
- 小林誠氏ら日本人研究者４人にノーベル賞

平成21年度（2009年度）



開園20周年記念式典＝平成21年4月18日


キリン「リンタ」の名付け親が来園＝平成21年7月26日


七夕企画「動物公園でしてみたいこと」で、アライグマに餌を与える＝平成21年8月23日


冬期臨時開園で披露したサル山のかまくら＝平成22年2月11日

【動物公園】

4月18日	開園20周年記念式典。上野動物園の小宮輝之園長が記念講演
7月8日	埼玉県こども動物自然公園から雄のキリンとシロフクロウ入園。キリンの愛称は「リンタ」に
7月25日	動物公園子どもサミット、プラザおでってで開催。小学生らが利用事例発表
10月3日	開園20周年記念シンポジウム、岩手大学で開かれる。エッセイストで絵本作家の澤口たまみさんが基調講演
3月24日	千葉市動物公園からシタツンガ２頭借り受け。愛称は雄が「ツンタ」、雌が「シータ」に

入場者数	180,986人
飼育動物数	101種 665点

【盛岡】

- 市が健康危機対策本部設置
- ホットラインサカナチョウでゆかたミニファッションショー
- 盛岡・北上川ゴムボート川下り大会で543艇が完走。ギネス記録に認定
- 沖縄県うるま市との交流事業として、「肝高の阿麻和利」が上演される
- 薮川小で最後の卒業式と閉校式

【岩手 & 国内外】

- 花巻東が選抜高校野球準優勝、夏４強
- 裁判員制度始まる
- 早池峰神楽がユネスコ無形文化遺産
- 衆院選で民主圧勝、鳩山政権誕生
- 宮古市に川井村編入
- チリ大地震で沿岸に津波
- 中米ハイチ大地震、死者30万人超

平成22年度（2010年度）


NTTの労働組合がわんぱく広場に植樹＝平成22年5月22日


動物公園まつりで、バナナの早食いに挑む丸山孝作技師（左）ら＝平成22年10月10日


友の会の例会で、クルミのカレンダー作りをする＝平成23年2月20日


日本動物園水族館協会から飼料など災害援助物資が届く＝平成23年3月29日

【動物公園】

5月2日	入園者400万人に到達
7月6～8日	野生のニホンツキノワグマが園内に出没し、臨時休園
11月13日	マ・シェリ主催で「盛岡市動物公園をぐるっと！オリエンテーリング大会」開催
11月17日	ホンドギツネなど４種８点が東武動物公園などから入園
3月13日	東日本大震災を受けて、定期開園を中止し、４月８日まで臨時閉園

入場者数	146,496人
飼育動物数	99種 712点

【盛岡】

- 市上下水道局発足
- サクラパーク姫神特設会場で、オオヤマザクラまつり初開催
- 神子田夕市初開催
- 大雨のため、盛岡舟っこ流しが延期
- 中央公園にドッグラン開設
- 盛岡駅開業120周年
- 啄木の歌集「一握の砂」発刊100年

【岩手 & 国内外】

- 小惑星探査機「はやぶさ」帰還
- ＪＲ岩泉線が脱線
- 沖縄・尖閣諸島付近で、中国漁船が日本の巡視船に衝突。映像流出も
- ニュージーランド地震
- 東日本大震災発生。福島第１原発で爆発事故

平成23年度（2011年度）



◀全国的な注目を集めた
「マオのスイカ割り」


バンダサミット＝平成23年7月30日


富山ファミリーパークからやって来たツシマヤマネコ「ツシマル」＝平成23年11月6日


釜石保育園の園児を招いて行われた開園式
＝平成24年3月15日

【動物公園】

4月9～17日	無料開放
8月14日	「マオのスイカ割り」が全国ニュースで流れ、ネットでも注目される
9月14日	弘前市弥生いこいの広場からアライグマ雄・雌各１頭を譲り受ける
10月18日	富山市ファミリーパークから雄のツシマヤマネコ受け入れ。愛称は「ツシマル」
1月20日～3月7日	被災地の幼稚園などを訪問し、動物とのふれあいなど実施
3月1日	大地震対応訓練実施
3月15日	定期開園セレモニーに釜石保育園の園児を招待
3月26日	公益財団法人移行を認定される

入場者数	155,963人
飼育動物数	103種 720点

【盛岡】

- 啄木100回忌
- さんさ踊りが県指定無形民俗文化財に指定される
- 好摩駅の東西自由通路が開通、新駅舎落成
- ビクトリア市から義援金受ける
- もりおか歴史文化館開館
- もりおか復興支援センター開設
- テレビ都南閉局

【岩手 & 国内外】

- 「LINE」のサービス開始
- 平泉が世界遺産に登録される
- 復興相に平野達男氏
- サッカー女子W杯で日本優勝。岩清水梓選手出場
- 八重樫東がWBAミニマム級、佐藤洋太がWBCスーパーフライ級の王者に

平成24年度（2012年度）


東北六魂祭で小動物とのふれあいを実施＝平成24年5月26日


ツシマヤマネコデーで、着ぐるみがお出迎え＝平成24年8月26日


動物愛護デーで、26歳のニホンツキノワグマ「月美」にプレゼントする果物のケーキを作る＝平成24年9月23日


群馬サファリパークから来た雄のアメリカバイソン（左）＝平成25年3月24日

【動物公園】

4月1日	特例民法法人から公益財団法人へ移行
4月2日	大森山動物園からニホンイヌワシの有精卵搬入。ニホンイヌワシの卵の長距離移送は全国初。当園ペアが11日、ふ化に成功
5月19日	雌のシタツンガ繁殖。愛称は「ターナ」に
5月26、27日	東北六魂祭に参加。盛岡城跡公園で小動物のふれあいや物販をする
7月11日	多摩動物公園から雄のグレビーシマウマ入園
9月3日	アフリカゾウのペアリング開始
11月19日	開園以来の個体である雌のアメリカバイソン死亡。3月14日、群馬サファリパークから雄1頭受贈

【盛岡】

- 啄木忌法要で新啄木かるた奉納
- 盛岡市とうるま市が友好都市提携
- 盛岡市がオンブズマン大賞受賞
- 新渡戸稲造博士生誕150年祭記念式典
- 19年ぶりに盛岡芸妓の新人が2人デビュー
- 肴町商店街の核店舗、Nanakオープン

【岩手 & 国内外】

- 岩手県のドクターヘリ出動開始
- 東京スカイツリー開業
- 衆院選で自公が勝利、第2次安倍政権発足
- トヨタ東日本生産の「アクア」、新車販売台数首位

入場者数	154,025人
飼育動物数	105種 743点

平成25年度（2013年度）


出来上がった草木染めを手に喜ぶ女の子＝平成25年5月26日


芝生広場近くに虫捕り基地を設け、捕虫法などを教える＝平成25年6月2日


園内で採れたクワの実でジャム作り＝平成25年6月30日


ゾウの糞で紙作り＝平成26年3月16日

【動物公園】

5月27日	アライグマ１頭逃走。６月５日に捕獲
7月24日	ミーアキャット雌２頭入園。９月６日から、アライグマと展示替えする。10月２日には雄１頭入園。愛称は雌が「ミカン」「ミルク」、雄が「ミント」に
10月3日	雌のキリン「ユズ」入園
10月18日	東北三園（仙台・秋田・盛岡）のアフリカゾウ飼育と繁殖に関わる検討会
12月13日	ツシマヤマネコ「ツシマル」、九十九島動植物園（長崎県佐世保市）へ移管
1月18日	ピューマ「ピューコ」死亡
3月13日	井の頭自然文化園から雄のツシマヤマネコ入園。愛称は「トラジロウ」

入場者数	158,743人
飼育動物数	101種 798点

【盛岡】

- 繋・猪去地区などで大雨・洪水被害
- 台風18号接近で、玉山区の松川氾濫
- グルージャ盛岡も参入したＪ３開幕
- 浅岸小、外山小、薮川中が閉校

【岩手 & 国内外】

- NHK「あまちゃん」ブーム
- 「奇跡の一本松」復元
- 北上山地が国際リニアコライダーの候補地に選定される
- 2020年五輪の東京開催決定
- 特定秘密保護法成立
- 滝沢市誕生
- ソチ冬季五輪男子フィギュアスケートで、羽生結弦選手が金メダル
- 県境産廃全量撤去完了
- 震災がれき処理終了

平成26年度（2014年度）


ドングリを使ってピンボールを楽しむ＝平成26年9月23日


トラジロウが来てから初めてのツシマヤマネコデー＝平成26年9月28日


「ちょっと早いクリスマス」で、リース作りをする来園者たち
＝平成26年11月30日

【動物公園】

4月11日	大森山動物園からニホンイヌワシの雛１羽移管（７月11日急死）
5月1日	ミーアキャット雌４頭繁殖
8月24日	富山市ファミリーパークから雌のムササビ受贈
10月14～16日	第62回動物園技術者研究会で、藤好浩之主任が「ニホンイヌワシの雛を長距離移送した繁殖例」を発表
10月21日	京都市動物園から雌のグレビーシマウマ借り受け。つがいとなり、繁殖に向けて準備開始
3月24日	雌のキリン繁殖。人工哺育で初めて成育。愛称は「リンゴ」に

入場者数	169,876人
飼育動物数	100種 842点

【盛岡】

- つなぎ多目的運動場、もりおか町屋物語館がオープン
- 玉山区渋民で林野火災
- さんさ太鼓の和太鼓同時演奏記録がギネス認定を受ける（3437人）
- 盛岡ナンバー導入開始
- 劇団モリオカ市民公演「あの年の盛岡1933」
- 紺屋町番屋が市に寄付される
- ＪＲ山田線ファンクラブ発足

【岩手 & 国内外】

- 三陸鉄道全線運行再開
- イスラム国（IS）が国家樹立宣言
- 長野・岐阜県境の御嶽山が噴火
- 釜石市が2019年ラグビーW杯会場に選ばれる

平成27年度（2015年度）


キリンの「リンゴ」が初めてお父さんの「リンタ」とご対面。おっきーな～！
＝平成27年4月8日


お面コンテスト＝平成27年4月29日


アフリカゾウへの餌やりをする「大人の一日飼育体験」の参加者
＝平成27年10月31日

【動物公園】

4月10日	岩手大学が野生リス調査のため、園内にセンサーカメラを設置
4月22日～	NHKラジオ「まじぇ５時」に森敦子・山本祐子両主任がレギュラー出演
5月7日	キリン「リンゴ」の公開開始
6月24日	群馬サファリパークから雌のアメリカバイソン受贈。愛称は「アメリ」に。雄は「タイソン」
7月14日	ＪＡＦ（日本自動車連盟）と動物公園使用料優待契約締結
11月10、11日	第25回ゾウ会議が盛岡市内で開催される。竹花秀樹主任が「メスゾウの移動について」、丸山孝作主任が「アフリカゾウの繁殖への取り組み」を発表
3月4日	雌のアルパカ入園。愛称は「モコ」に

入場者数	180,262人
飼育動物数	102種 768点

【盛岡】

- 国道４号渋民バイパスが全線開通
- 盛岡地域振興商品券ＳＡＮＳＡ発売
- 盛岡・北上川ゴムボート川下り大会で814艇が完走。世界一に返り咲く
- 手づくり村の来場者が2000万人到達
- 全国中学校体育大会の競泳男子400mメドレーリレーで、大宮中水泳部が県勢初の優勝
- 通年型公設スケートリンク「アイスリンク」がオープン

【岩手 & 国内外】

- 釜石市の橋野高炉跡が世界文化遺産に
- 新国立競技場計画見直し
- 安保関連法成立
- 大谷翔平がプロ野球パ・リーグの投手部門で３冠
- 日銀がマイナス金利導入

平成28年度（2016年度）



来園者500万人＝平成28年5月29日


アルパカの赤ちゃん「モフ」の名付け親来園＝平成28年7月9日


ツイッターに掲載し、評判となった「ヒツジに乗るヤギ」＝平成28年7月25日


シロサイ「サイカ」とふれあう「大人の一日飼育体験」の参加者＝平成28年10月22日

【動物公園】

5月29日	開園以来の入園者500万人達成
6月5日	雄のアルパカ繁殖。愛称は「モフ」に
6月12日～	ツイッター掲載の「ヒツジに乗る子ヤギ」が評判に。マスメディアに取り上げられる。「隠れたつもりのリス」も（8月11日～）
9月7～9日	盛岡広域障害者就業・生活支援センター紹介者飼育実習
12月8日	岩手県企画の東日本大震災復興ドラマ「冬のホタル」のロケ地となり、撮影が行われる
3月22日	茨城県日立市かみね動物園から雌のカピバラ入園。愛称は「サクラ」に

入場者数	158,751人
飼育動物数	100種 705点

【盛岡】

- 土淵に県内初の施設一体型小中一貫校「盛岡西峰学園」が開校
- 錦木関が幕内昇進
- 盛岡中央消防署の新庁舎の運用開始
- アイスアリーナの愛称が「盛岡タカヤアリーナ」に決定
- 盛岡バスセンター廃止

【岩手 & 国内外】

- 熊本地震で2回の震度7
- 英国民投票でEU離脱決定
- 女子レスリングの伊調馨選手、五輪4連覇
- 台風10号が初の岩手県上陸、岩泉などに甚大な被害
- 岩手県で完全国体
- 実業家のトランプ氏が米大統領選制す
- SMAP解散

平成29年度（2017年度）


上野動物園へと運び出される直前のキリン「リンゴ」＝平成29年4月12日


◀園内の動物の写真がラッピングされたふるさと交通のタクシー＝平成29年4月20日



▼第一回「カワウソゥ選挙」で3位に入ったカナダカワウソ「カエデ」に贈られた表彰状


カピバラ「サクラ」の名付け親来園＝平成29年4月30日

【動物公園】

4月12日	キリンの「リンゴ」、上野動物園へ
4月20日	㈱ふるさと交通による「動物公園ラッピングタクシー」運用開始
6月7日	大森山動物園から雄のカピバラ受贈。愛称は「モミジ」に
7月5日	雌のキリン繁殖。愛称は「カリン」に
7月30日	スマートフォンで使える当園の「自分で作る動物図鑑」アプリ公開
10月13日	ライオン「クイーン」死亡
10月15日	「カワウソゥ選挙」で、当園のカナダカワウソ「カエデ」が全国3位に
10月24日	キリン「ユズ」死亡
11月23日	当園ツイッターのフォロワー3万人超

入場者数	170,165人
飼育動物数	97種 647点

【盛岡】

- 盛岡タカヤアリーナが通年フロア施設としてリニューアルオープン
- 記録的な大雨で、北上川ゴムボート川下り大会が41回目で初の中止
- 映画「終わった人」ロケに、多くの市民がエキストラとして参加
- ユートランド姫神の利用者数が500万人到達
- 盛岡タカヤアリーナで男子テニスの国別対抗戦デビスカップ開催

【岩手 & 国内外】

- 将棋の藤井聡太四段が29連勝
- 沼田真佑さん、若竹千佐子さんが芥川賞受賞
- 五輪相に鈴木俊一氏
- 不来方高音楽部全国3連覇

平成30年度（2018年度）


売店で販売を始めたオリジナル缶バッジ


ツシマヤマネコ「トラジロウ」を治療する様子。残念ながら、この2日後死亡する＝平成30年5月17日


死亡したアフリカゾウ「たろう」にささげられた献花＝平成30年12月2日


ペットボトル・オーケストラ＝平成31年3月16日

【動物公園】

5月7日	売店でオリジナル缶バッジ販売開始
5月19日	ツシマヤマネコ「トラジロウ」死亡
6月26日	１回目の動物公園再生事業検討会議
7月11日	大森山動物園から雌のピューマ「ピュー子」借り受け
7月22日	園内初のトレイルランニング大会開催
8月6日	雄のグレビーシマウマ繁殖。愛称「ラッキー」
10月21日	盛岡バスセンター跡地で移動動物園
11月29日	アフリカゾウ「たろう」死亡
12月18日	ニホンツキノワグマ「月美」死亡
2月23日	釧路市動物園から雄のカナダカワウソ「リッキー」借り受け
3月16日	雌のカピバラ繁殖。愛称は「ツバキ」に

入場者数	157,052人
飼育動物数	96種 668点

【盛岡】

- ラグビーW杯2019公認チームキャンプ地に内定
- スポーツクライミングの第１回コンバインドジャパンカップ開催
- 岩山展望台がリニューアル
- 原敬の総理就任から100年
- 盛岡ナンバーの地方版図柄入りナンバープレートの交付開始

【岩手 & 国内外】

- 釜石鵜住居復興スタジアム完成
- テニス全米オープンで大坂なおみ優勝
- 大谷翔平が米大リーグ新人王に
- ＪＲ山田線宮古―釜石間が三陸鉄道に移管され、リアス線の運行開始
- 菊池雄星投手が米大リーグ入り
- イチロー引退

令和元年度（2019年度）



令和でパチリ＝令和元年5月5日


江戸家小猫さんを迎えて「鳴きまねライブ」＝令和元年9月1日


SNS上で「餌待つアナグマ」が人気爆発。獣舎の前にもひとだかり＝令和元年9月7日

【動物公園】

4月20日～	カピバラ「ツバキ」の動画「なでなで…コロン！」の再生回数が約95万回に
4月27日～5月6日	春まつり。鳥の羽根などを賞品にしたじゃんけん大会が全国的な注目浴びる
6月20日	28年ぶりにアメリカバイソン（雌）繁殖。愛称は「リカ」に
7月14日	ピューマ「ピュー子」死亡
7月26日	シロフクロウの赤ちゃん誕生。8月1日には2羽目
9月4日～	「エサを待つニホンアナグマ」の動画の再生回数が240万回超
9月25日	とべ動物園から雄のピューマ「タフ」借り受け
10月26日～11月4日	開園30周年記念事業として、写真・ポスター展と移動動物園をマリオスで開催

入場者数	155,510人	（令和元年12月31日現在）
飼育動物数	101種666点	

【盛岡】

- 肴町商店街の「Nanak」閉店
- 岩手医大付属病院が矢巾町へ移転
- いわて盛岡シティマラソン初開催
- 都南川目道路開通

【岩手 & 国内外】

- 三陸防災復興プロジェクト開催
- 米プロバスケットボールNBAのドラフト会議で、八村塁がウィザースから全体9位で指名される
- 京都アニメーション放火事件発生、死者36人
- 三陸鉄道の利用者5000人突破
- ラグビーW杯日本大会開催。釜石ではフィジー対ウルグアイ戦も
- 東日本大震災津波伝承館オープン
- 消費税率10%に
- 沖縄の首里城焼失

第2章 あの日あのとき

盛岡市動物公園のひとつの節目に寄せて

小　山　和　良

私は昭和63年４月に動物公園建設室へ異動しました。動物公園開園の１年前です。それから開園、その後も引き続き整備をすすめ、アフリカ園の開園まで４年在籍しました。私も30代前半とまだ若かったので、体力的にかなり無理がきくころでした。担当の仕事は各種契約事務等でしたが、何せ事務担当は私と係長級の上司だけ。そのほかは獣医師１人と室長の総勢４人が専任の職員という組織でした。何から何までみんなでやっていたという印象です。いま思い返すと、盛岡に初めての動物園を作るという１つの大きな目標に向かって、みんなでがんばった良い思い出です。

たくさんのエピソードがありますが、そのいくつかをご紹介したいと思います。

開園は平成元年４月22日（土）でした。この日に決まったのは、それほど前からではなく、突然いわゆる「上からの一言」だったと記憶しております。その日までに整備を完了するのはかなり厳しい状況で、建設事務室内でも結構もめたことを覚えています。

年明けから工事関係者もかなり無理をしてがんばってくれたのですが、懸念していたとおり開園が迫ってきてもなかなか完成せず、いよいよ明日が開園となった４月21日になってもエントランス部分のインターロッキングの歩道が出来ていませんでした。そこは開園式の会場となるところでしたので、極めて深刻でした。それと動物の解説板もまだ付いていませんでした。

私たちも開園式の準備で徹夜でしたが、工事関係者も徹夜でした。やっと出来上がったのは開園の日の朝で、開園式になんとか間に合いました。前日の状態から思うと、ほんとうに信じられない速さでの完成でした。大手ゼネコンの力を実感したものでした。

冷や汗ものの開園となりましたが、私どもの精進の賜物ということでしょうか、当日は大変な好天でした。売店のアイスクリームが飛ぶように売れていたのを記憶しています。レジ打ちも全くの素人で、要領を得ないこともあって時間がかかり、並んでいたお客様のアイスクリームが溶けるので、お金を払わず食べてしまう方や、持って行ってしまう方が続出してしまいました。そのほか小さなトラブルはありましたが、なんとか開園の日、長い１日が終わりました。

ほっとする間もなく、動物園が１年で一番忙しいゴールデンウイークに突入し、悪戦苦闘の日々を過ごしました。国道４号を連日渋滞させてしまい、当局からお叱りも頂戴しました。

その後は営業を続けながら、アフリカの動物を展示するアフリカ園の建設を続けていました。それに合わせて、アフリカの動物も用意する必要がありました。

アフリカの動物の中でも人気のあるアフリカゾウは、国内ではオスとメスの子供を購入することができないので、動物商を通じてアフリカから用意することとなりました。かなり高額な物でしたが、背に腹は代えられず、契約しました。

ゾウは手に入ったのですが、日本が諸外国とともに南アフリカへの経済制裁を科していたため、南アフリカ政府が日本への出国を許してくれない事態となっていることが判明しました。これではアフリカ園の開園までには間に合わないだろうと半ばあきらめていたところ、しばらくして情勢が一変し、内閣が南アフリカへの経済制裁解除を決めたというニュースが流れました。するとすぐに、「ゾウの出国が許可され、輸入できることになりました」と動物商から連絡がありました。

私が市役所生活 38 年間で、国際関係が直接仕事に影響するのを感じたのはこの一度だけでした。

開園当初を振り返ると、何もかも手探り状態、新しい体験の連続で、夜遅くまで仕事をすることも多く、つらい毎日が続いていました。しかし、入園者も多数で、注目を浴びることも多く、やりがいがありました。(夜にみんなで「これがいつか良い思い出になるよ」と励まし、語り合いましたが、なかなか思い出になってくれず、日々の仕事に追われる毎日が続いていきました。)

でも、本当に大変だったのは、実はその後現在まで運営を続けてきた方々だったんだと、いま改めて感じています。開園当初は新しい動物園というだけで、集客努力なしでも多くの方に来園していただきました。その後年々、施設は老朽化していき、財政的な制約から動物園としての大きなモデルチェンジもままならない中での集客の大変さは容易に推測できます。

開園後 30 年を経て、新たな出発の時を迎えようとしている盛岡市動物公園ですが、この機会に施設面でも運営面でも魅力を倍増させ、ますます市民に愛される動物園として、次なる 30 年へと歩みを進めていってほしいと心から願っております。

私も開園に携わった 1 人としての誇りを今後も持ち続けていこうと思っております。

最後に、これまで盛岡市動物公園の運営を担ってこられた盛岡市動物公園公社の皆さまのご努力に感謝と敬意を表します。



開園式でテープカットする太田大三市長(中央)ら＝平成元年４月22日



開園直後、サル山前に集う人たち＝平成元年４月22日

「動物公園建設事務室」の思い出

宮　田　　晃

私は、昭和61年度に当時の公園緑地課に異動になり、併せて動物公園建設事務室の兼務を命じられました。動物公園建設に僅かながら携わった職員として、30年以上前の記憶を思い出してみたいと思います。

発足当時の動物公園建設事務室は、室長以下小職を含め計7名でスタートしました。ほどなく、辻本恒徳獣医師が着任したと記憶しています。

最初のころは、各地の動物園を視察することから始まりました。秋田の（大森山）動物園、多摩動物公園、富山の動物園、札幌の動物園など、動物公園建設事務室の上司と訪れました。特に印象に残っていることは、多摩動物公園の矢島先生から直接お話をうかがうことができたことでした。多摩動物公園の一部園舎の改築費用予算が約200億円とうかがい、大変驚きました。盛岡市動物公園の事業費が、用地費も含めて約25億円という規模だったからです。

建設を担当した当時は、荒造成がほぼ完了し、園路、上下水道施設及び電気設備等の基盤施設の整備からスタートしました。上下水道や電気設備は全く担当したことがなく、庁内の先輩、同僚から教えを乞い、設計・積算、現場管理を何とかやっていたと思います。

平日の業務時間内は兼務であり、お互いに別の仕事があるので、休日や夜間に訪ねていくと、必ず顔なじみの先輩がいて、常に同じ方から指導していただきました。嫌な顔をせず、何も分からない私に指導していただいたことを、今更ながら感謝しています。

また、動物公園の南側にある調整池の建設では、雨水調整量の計算や法面保護材の吟味をした記憶があります。上司からは、雨水計算を間違えると調整池天端（てんば）から越流するとか、法面崩壊は下流側の地域へ甚大な災害をもたらすなど、脅しも交えて指導されました。災害のほとんどは水が絡んでいますので、大切な教えであったと思っています。

動物公園内の植栽は、造園の専門家だった当時の部長から直接指導を受けました。現況平面図だけを持って、園内の現場をすべて廻り、土質、水はけ、日照及び施設配置計画等を考えながら、的確にアドバイスしていただいたことを昨日のことのように思い出されます。それまでの公園の植栽計画は、地域住民の方から意見をうかがい、維持管理が容易な地場の植物を植栽していました。植物が成長した何十年も先を見通しながら、植物が現地の土、水はけに適合し、周辺の木々との相性、日陰、日向も考えた植栽計画のご指導をいただき、未熟な私としては、衝撃を覚えた記憶があります。

そのほか、サル山の擬岩とか、水道のポンプ場、園舎のモート（溝）建設とか、初めての経験ばかりでしたが、開園スケジュールが予定されていることで、必死に取り組みました。その後、土木技師として様々な部署へ異動しましたが、動物公園の経験が大きく役立ったことは確かです。

今後、動物公園の再生が進み、今まで以上に訪れる人々の共感を呼び覚まし、人と自然と動物が一体となった新しい盛岡市動物公園となることを期待しています。

キリンたちとの日々

鈴　木　貴　久

当園でキリンの飼育を始めたのはアフリカ園が開園した平成３年（1991 年）からです。繁殖については、生まれてまもない死亡やとても珍しい双子の流産などが続き、なかなかうまくいきませんでした。

平成 10 年（1998 年）に初めて担当になったとき、キリンは初代の雌「リリー」しかいませんでした。じきに２代目の雄「リック」が来園し、改めて繁殖に取り組むことになりました。ペアの相性は良く、雌の発情周期は約２週間ごとに来るため、出産の時期を考慮して隔離するなどの繁殖制限をする方が大変でした。妊娠期間は約 15 カ月。既に餌や飼育方法の見直しも始めていて、他園にも相談しながら、より落ち着いて出産や子育てができるよう努めました。その甲斐もあって、無事出産。生まれた子も問題なく起立しました。あとは授乳するかどうかが順調な成育への分かれ目でしたが、うまくいきました。陰からモニターで見ていて、思わず「やったー」と叫びたくなりました。必死でこらえて、無言で当時の上司らと思わずハグや握手をしたことが忘れられません。

このときの子「リッキー」を含め、このペアからは４頭が生まれました。現在も他園で活躍し、繁殖した個体もいます。リックは優秀な種雄と見込まれ、平成 18 年（2006 年）に、以前から現在まで国内の繁殖基地として機能している借り受け先の東京都多摩動物公園へ返還しました。滅多にないことでした。

平成 23 年（2011 年）に再び担当に戻ったときは、リリーとまだ若い３代目の雄「リンタ」がいました。リリーはまもなく、23 歳で死亡しました。当時、国内で生存していた個体の中で４番目に高齢でした（飼育下のキリンの最高齢は約 30 歳）。まだまだ生きてほしかったです。

その後なかなか雌が見つからず、平成 25 年（2013 年）にやっと、２代目の雌「ユズ」が来園することになりました。ユズは小柄で、群からはじかれてしまうような個体でした。雄にも興味を示されず、脚にも不安がありました。ところが、驚くことに、来園するとすぐに発情が来たのです。よほどリンタとの相性が良かったのでしょう。予想以上に交尾もうまくいきました。本当にこの小さな体で無事に出産できるのか。とても心配しました。実際は安産でした。

平成 27 年（2015 年）３月に生まれたこの子「リンゴ」はとても小さく、起立してもうまく授乳できませんでした。やむを得ず、人工哺育に切り替えました。最初はうまくいかず、密かに「もうダメかも…」と思ったこともありました。「何とかこの子を生かしたい」と踏ん張り、手を尽くした結果、リンゴはすくすく成長。平成 29 年（2017 年）４月、東京都恩賜上野動物園へお嫁入りしました。「（果物の産地で有名な）盛岡から来たリンゴちゃん」としていつまでも愛されるよう決めた愛称ですが、いまも会いに行ってはその様子を教えてくださるお客さんがいます。ありがたく、またうれしく思います。

ユズは、再び人工哺育になってしまった２頭目の子「カリン」を産んだ後、しばらくして死亡しました。とても残念ですが、残してくれた２頭の子とともにいつまでも忘れずにいてほしいと思います。当園で生まれたそのほかのキリンたちもさらに繁殖に貢献してほしい。当園のキリンの飼育の発展とともに願っています。

アフリカゾウ「たろう」と「はなこ」の物語

小野　康・竹花秀樹

アフリカゾウのたろうとはなこが盛岡市動物公園にやって来たのは平成３年(1991年)11月14日。予定より遅れ、もうすっかり日も暮れ、午後10時すぎになっていました。ライオンやキリンは既に入園していて、アフリカ園もその年の７月に開園していました。「動物園の主役がようやく来た」という感じでした。

南アフリカで生まれ、保護施設で育てられていたというたろうとはなこ。来園したときはまだ１歳ぐらいで、体高も１mほどでした。環境が変わり、餌を食べてくれるかを一番心配していましたが、最初からミルクを飲み、乾草も食べてくれました。

まもなく外にも出しました。雪が降っているときはさすがに寒そうでしたが、ゾウ舎を掃除するため、寒さが厳しくても毎日、運動場へ出しました。翌年にはもう、寒さにも慣れていたように思います。たろうは雪が好きで、食べたり、鼻先でつまんで飼育係に向かってプッと投げて遊んだりしていました。

体が大きくなる動物なので、事故が起きたら大変です。けがをしたり、病気になったとき、飼育係との間に信頼関係がなければ、手当てをすることができません。そのため、ほかの動物より接する時間を長くしました。指示通りに動いてくれるよう、朝夕必ず、トレーニングをしました。ほめるときはほめる、叱るときは叱る。基本的には人間の子供を育てるのと同じです。たろうもはなこも性格が良く穏やか、素直で、覚えは良かったです。どちらかというと、新人の飼育係の方が怒られていました（笑）。ゾウを子供のころから育てることは滅多にありません。トレーニングの内容をどんどん覚え、成長していく姿を見られ、とても楽しかった。やりがいがありました。

はなこは13年(2001年)の七夕の日、難産の末、亡くなりました。10歳でした。たろうは30年(2018年）11月に死亡しました。死因は肺炎。28歳でした。60～70年といわれるアフリカゾウの寿命からすると、あまりに早い旅立ちでした。残念としか言いようがありません。

園内に眠っている、たろうとはなこ。でも、その物語は終わっていません。

業界では、アフリカゾウは群れ飼育しないと繁殖しないというのが一般的な認識でした。そんな常識を覆すかのように、たろうとはなこはあと一歩で、子供を産むところまでいきました。マオが来園したのも、たろうが妊娠させたという実績があったからです。いま、園では人工授精に挑もうとしています。

たろうとはなこは、多くの来園者を楽しませてくれました。あのビッグな体躯、愛嬌のある仕草がいまも脳裏に焼き付いています。いまもなお、新たなチャレンジへと向かっていけと奮い立たせてくれています。

第3章 園内概要

園内では、約100種700点の動物が飼育されています。動物の展示エリアは主に、次の６つからなっていました。

日本生態園
(3,582㎡)

ニホンザル、ノウサギ、ホンドギツネ、ホンドタヌキ、テン、ニホンリス、ニホンジカ、ニホンツキノワグマなど、県民にとっても身近な、地域に生息する動物を見ることができ、その繁殖の調査研究もしています。

鳥類ゾーン
(1,468㎡)

ニホンイヌワシ、チョウゲンボウなど地域に生息する猛禽類のほか、キジ類・ガンカモ類などを見ることができます。シロフクロウやワライカワセミといった愛くるしい鳥たちもいます。

ビクトリアコーナー
(1,072㎡)

ピューマやオオツノヒツジ（初代は盛岡市の姉妹都市であるカナダのビクトリア市から寄贈）を展示しています。カナダカワウソが人気で、活発に水の中を泳ぎ回る愛嬌ものの「リッキー」と「カエデ」を目当てに遠方から訪れるファンがいるほどです。

子供動物園
(2,655㎡)

ウサギやヒヨコ、モルモットを抱いたり、ヤギやヒツジなどと触れ合える場所です。ウシやラマがいるアニマルファームがあります。週末に行うイベント、幼稚園・保育園の園児や小・中学生の遠足体験学習などで、中心的に活用されました。最近、人気が沸騰したのは、カピバラの「モミジ」と「サクラ」の間に生まれたメスの「ツバキ」で、体をなでられ、うっとりして横になる仕草がかわいく、動画の再生回数が 90 万回を超えました。

草原ゾーン
(3,020㎡)

北アメリカやオーストラリアの動物相がうかがえる場所。アメリカバイソン、アカカンガルー、エミューなどを展示しています。オグロプレーリードッグは、一生懸命穴を掘ったり、切り株を模した構造物の上で見張りに立つポーズが、来園者の目を楽しませています。

アフリカ園
(8,966㎡)

園内最大の展示施設。アフリカゾウやライオン、シロサイ、キリン、グレビーシマウマ、フラミンゴなどがいて、アフリカのサバンナ地帯をイメージさせます。

広い園内は自然も豊か。200種を超える樹木が植生しているほか、春から秋にかけてはさまざまな草花が来園者の目を楽しませてくれます。恵まれた自然を棲みかに約750種の虫たちも見つけることができます。

盛岡市動物公園施設配置図



建物名

A	セミナーハウス
B	屋外便所（4 か所）
C	休憩所
D	子供会館
E	ローラーすべり台
F	ログハウス
G	あずまや（10 カ所）
㋑	飼育管理事務所
㋺	倉庫
㋩	車庫
㋥	動物病院
㋭	ブリーディングエリア舎
㋬	焼却炉
㋣	堆肥集積所
㋠	ポンプ場
㋡	配水池
㋦	動物繁殖舎

❶	サル舎
❷	ノウサギ舎
❸	テン・ハクビシン舎
❹	アナグマ舎
❺	リス舎
❻	ニホンジカ舎
❼	タヌキ・キツネ舎
❽	クマ・イノシシ舎
❾	鳥類舎
❿	イヌワシ舎
⓫	シュバシコウ舎
⓬	サイ・フラミンゴ舎
⓭	キリン・シマウマ舎
⓮	ライオン舎
⓯	ゾウ舎
⓰	白鳥池
⓱	草原ゾーン舎

⓲	プレーリードッグ舎
⓳	アニマルライド舎
⓴	ウサギ・モルモット舎
㉑	コンタクト舎
㉒	アニマルファーム舎
㉓	ニホンカモシカ舎
㉔	ミーアキャット舎
㉕	オオツノヒツジ舎
㉖	ピューマ舎
㉗	カナダカワウソ舎
㉘	アルパカ舎

日本生態園



ニホンザルの親子



夏のおやつを味わうニホンザル



トウホクノウサギ



テン

ニホンアナグマ
集合！





ニホンヤマネ



ニホンリス



ニホンイノシシ



アカネズミ


ニホンジカ


ニホンツキノワグマの「姫」(左)と「リオ」


ツシマヤマネコ


ホンドギツネの子供たち


ホンシュウモモンガ


アオダイショウ


ツチガエル


ホンドタヌキ


アルパカの「モコ」(右)と「モフ」



鳥類ゾーン




ニホンキジ


アメリカワシミミズク




フクロウ


シュバシコウ


オシドリ


ハチクマ


チョウゲンボウ


アカツクシガモ

ビクトリアコーナー



カナダカワウソの「カエデ」(左)と「リッキー」

魚雷のように泳ぐ「カエデ」





雪と戯れる「カエデ」



「リッキー」のスタンディングポーズ



あくびするピューマ「ピュータ」



雪の中のオオツノヒツジ



紅葉とオオツノヒツジ

ミーアキャットの親子





夏の陽に輝くニホンカモシカ



ミーアキャットのおしくらまんじゅう？

子供動物園



ウシ



カイウサギ



ラマの「ムーチョ」(奥)と「ポッキー」



初公開されたときのカピバラ「ツバキ」(中央)



ヤギの赤ちゃん



ヤギとヒツジ



ニホンイシガメとカピバラ



ロバ



コールダック



インドクジャク

草原ゾーン



冬晴れの中のアカカンガルー



オグロプレーリードッグのあいさつ



ポニー「ポポ」





アメリカバイソン
「アメリ」(奥)と「リカ」



エミュー



アカカンガルーの赤ちゃん



アメリカバイソン「タイソン」

アフリカ園


シタツンガの力比べ


生まれたばかりのグレビーシマウマ「ラッキー」


ヒョウモンガメ



キリンの
「リンタ」(左)と「ユズ」


「カリン」の体重測定


「リンゴ」(右)


アフリカゾウ「マオ」のスイカ割り



仲睦まじい
「たろう」と「マオ」


さくらまつり


ライオン「キング」


ライオン「プリンセス」


大人の１日飼育係体験で餌の肉に食いつくキング


グレビーシマウマとダチョウ


ヨーロッパフラミンゴ


ケープハイラックスの赤ちゃん


シロサイ「サイカ」


フェネック



昆　虫


アオカナブン


アオフキバッタ


イチモンジカメノコハムシ


ウスバシロチョウ


エゾゼミ


エンマコオロギ


オオシオカラトンボ


オオスズメバチ


オニヤンマ


カワトンボ


ゲンジボタル


ゴマダラカミキリ


ジョウカイボン


ナミテントウ


ノコギリクワガタ


ヒグラシ


ベニシジミ


モモチョッキリ


ヤブキリ


ヨツスジハナカミキリ

樹木&草花

樹木


アオダモ


アキグミ


イタヤカエデ


ウグイスカグラ


ウワミズザクラ


エゴノキ


オオバクロモジ


オニグルミ


キブシ


クサギ


コナラ


ソメイヨシノ


ヒトツバタゴ


マタタビ


モミジイチゴ

草花


ヤマブキ


エビネ


オオバギボウシ


オオバナノエンレイソウ


オカトラノオ


カタクリ


キバナイカリソウ


クリンソウ


ゲンノショウコ


ササバギンラン


シラネアオイ


チゴユリ


ツリフネソウ


ナギナタコウジュ


ヒトリシズカ


ベニバナイチヤクソウ


ホタルカズラ


ミズバショウ


ニホンタンポポ

第4章 教育普及活動

盛岡市動物公園では、来園者の多様な興味に応えながら、公園の魅力を伝え、再訪につながるよう、教育普及に関わる事業を企画、展開しています。主なものは次のとおりです。

ウサギをだっこ

園内では毎日、時間帯を設け、子供たちが飼育係から手渡された子ウサギやヒヨコ、モルモットをだっこし、小動物のぬくもりを感じることができます。人気はすっかり定着。好天の休日には公園入り口で渡された催し物の案内やアナウンスで時間を確認した親子連れで賑わいます。

ポニー乗馬

土・日・祝日の午後に１時間、５歳以上小学６年生まで先着80人がポニーに乗馬できます（５歳未満はまたがるだけ）。子供たちは数分間、飼育係が引くポニーにまたがって、カウボーイ（カウガール）気分を味わうことができます。

動物教室

幼稚園や保育園、小学校を中心とする各種団体が、動物とのふれあいや、飼育係の説明を聞きながら動物を見て回る「ガイドツアー」などを楽しめます。予約を受け付けた上で、動物教室担当の飼育係と時間や内容を調整して実施。毎年、行事に組み込んでいる県内の団体も多く、年によっては延べ300団体２万人を超えるほど浸透しています。

どうぶつだいすきクラブ

開園直後からの取り組みです。土・日曜日や祝日の正午から１時間、来園した子供たちが動物のお面作りなど工作やクイズに挑み、休日の思い出作りができます。

動物公園友の会

会員は動物公園の催しのボランティアをしたり、生き物が生息しやすい場所「ビオトープ」の管理、園内の樹名板の作成などを行っています。子供会員の中には動物について学んだことをまとめ、入園者に動物の解説をする「子供動物解説員」の役を務めているメンバーもいます。

昆虫採集クラブ

平成22年度スタート。虫を捕りながら自然の中で遊び、採集した昆虫を使って標本作りにも挑むことができます。園内でこれまで採集した昆虫は約740種に上っています。

自然観察会

参加者は園内の散策路や林、池や沢などを回りながら、両生類の生態を学んだり、昆虫探し、草花遊びをします。


ウサギをだっこ


ポニー乗馬


サマースクールでノネズミ探し


サマースクールでアルパカ放飼場の掃除


動物教室


工作会「コケ玉を作ろう」


動物公園まつりでアルパカの
説明をする友の会のメンバー


大人の1日飼育係体験で餌作り


昆虫採集クラブ


自然観察「水の中の生き物を探そう」


友の会の例会で園路に動物の
足跡をペイント

第5章 動物公園で働く人たち

動物たちの世話をしているのは飼育係です。餌を与えることからふんの始末までします。餌作りや餌やり、獣舎の掃除など、動物たちの生活を、陰日向なく支えています。動物たちは言葉を話せません。ですから、けがをしていないか、病気になっていないか、いつも様子をうかがっていなければなりません。この仕事は、酷暑の日でも厳寒の日でも、雨や風が強いときでも変わりません。

平成31年度（令和元年度）は、動物の世話を22人の飼育係が分担して行いました。でも、全員が毎日したわけではありません。基本的に週2日、代わりばんこに休みをとるので、日によって人数が違いましたが、平均して13人前後でした。

飼育係は朝8時半に申し送り事項を確認し合った後、各獣舎を回り、動物たちを放飼場に出し、10時半ごろまでに獣舎の掃除をします。動物によっては餌を与えます。午後3時半から5時にかけて、獣舎に餌を置いて、動物たちを収容し、放飼場の清掃をします。朝夕に世話をする際、動物たちの健康状態をチェック。異変があれば、獣医と連携して治療に当たります。

飼育係の仕事は、動物の世話だけではありません。

教育普及活動で中心的役割を果たしているのも飼育係です。獣舎のメンテナンス、飼料の搬入など力仕事もこなします。遠足などで動物公園を訪れた幼稚園児や保育園児、小学生らが、動物とのふれあいなどを楽しむ動物教室の先生役を務めます。動物教室については事前に、来訪日時や希望する内容の調整もします。マスコミの問い合わせや取材にも応じています。

特に忙しいのは、土・日曜日、祝日です。

ふんをコンテナ（業者が搬出する）に入れる「ボロ積み」や餌作りなどの通常業務に加え、令和元年度はドキドキタイムを1日に5回設け、来園者によるニホンザル・キリン・アフリカゾウへの餌やり、来園者が参加しての工作体験や自然観察などをしました。「どうぶつだいすきクラブ」の活動、ウサギ・ヒヨコ・モルモットのだっこ、ポニー乗馬の係も、分担を決めて行いました。

動物園の主役は言うまでもなく、動物たちです。その命を預かっていることは、強いストレスにさらされていることになります。一般の人たちはとかく大きな個体の生死に目が向きがちですが、繁殖が多い小さな動物にも命があります。どんな動物でも、赤ちゃんが生まれれば嬉しく、死ねば悲しいです。「命の重さは、個体の大きさと関係ない」のです。精神的にタフでなければ務まらない仕事です。



アフリカゾウへの餌やり体験の様子

ほかに、獣医が動物たちのけがや病気の治療に当たっています。業務がスムーズに遂行されるよう縁の下の力持ち的役割を果たした総務管理職員もいます。さらに、券売や売店、レストハウスでは臨時職員の人たちが日々奮闘し、収益のアップに尽力しています。

Fight!

動物教室でウサギのだっこの仕方を教える


マスコミの取材対応




老人福祉施設での移動動物園で、ボールニシキヘビを手渡し


ポニー乗馬で手綱を引く


ニホンザルへの「おやつ」を手渡し


券売


売店


青果物の搬入作業


動物教室を申し込んだ団体との内容調整事務をする


麻酔下でのライオンの治療


岩手大でニホンイヌワシの診察


レストハウスの厨房

第6章 公社最後のゴールデンウイーク

平成から令和へと時代が変わる節目となった、公社最後のゴールデンウイークは、前例のない10連休でした。雨が降った日は５日にも上り、天に恵まれた10日間とはいえませんでした。それでも、多い日で約７千人、計３万８千人余の方に来園していただきました。

園内では連日、「ドキドキタイム」と銘打った、動物と触れ合ったり、動物たちの生態が分かるイベントを繰り広げ、来園者を出迎えました。ニホンザルとカナダカワウソ、キリン、アフリカゾウのマオに、桜の形に型抜きしたリンゴなどの餌やりを来園者に体験していただきました。

特に注目されたのは「じゃんけん大会」。ゴールデンウイーク前から、マスコミが関心を寄せ、全国ネットのテレビ番組でも取り上げられました。それまで企画したイベントでの賞品というとぬいぐるみや商品券だったのですが、初めて園内の動物たちゆかりの物にしたからです。「カナダカワウソが体を拭くのに使っている麻袋」（４月27日）、「アフリカゾウのマオが宝物にするために探し出して持ってきた石」（同28日）などです。

発案したのは村山淳主査、竹花秀樹・山本祐子・森敦子・荒井雄大各主任、松村亜裕子技師からなる広報・マスコミチームでした。「そんなの、ほしい人いないよ」という声もありましたが、蓋を開けたら、ネットでも紹介され、「世界で１つだけの…賞品？」などと盛り上がりました。

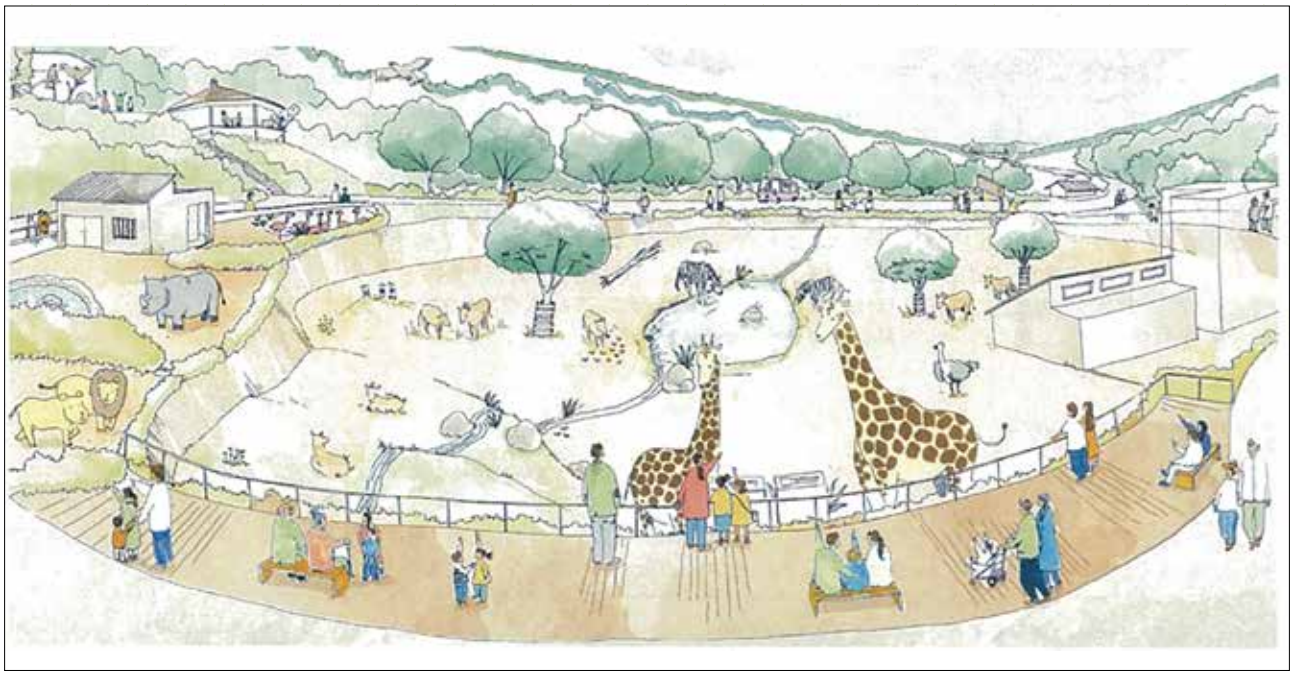
大会では、300人近い人が参加した日もありました。賞品目当てに長野県や首都圏から訪れた女性もいました。グー、チョキ、パーのボードの前に参加者が立ち、賞品の対象動物担当の飼育係が箱の中から、先端にグー、チョキ、パーが付いたスティックを引き、勝った人たちが次のじゃんけんに進むことを繰り返し、勝ち残りが少数になった時点で直接対決して、勝者を決めました。大会の参加者は10日間で約1350人に上りました。

振り返って、「何が当たるか分からない。最初から、『そんなの、無駄だろう』では、何も変わらない」と竹花主任。荒井主任も「これが当たったおかげで、次も何かやってみようという気持ちになっている」と話します。知名度アップの効果もあったと思われます。次につながる企画でした。


じゃんけん大会の様子


賞品の１つ、ダチョウの卵

第7章 再生計画



盛岡市動物公園が開園した平成元年（1989年）はバブル景気真っただ中の経済成長時代でした。しかし、その景気が3年に崩壊すると、緊縮時代に突入。盛岡市も厳しい財政運営を強いられています。施設の老朽化や盛岡広域圏の人口減少、レジャーの多様化が影響し、元年に26万人あった動物公園の来園者が14万人台まで落ち込む年も出てきました。人件費は増え続け、市の財成負担が右肩上がりで増加、平成29年（2017年）には約2億6千万円に達しました。

この事態を、市は「市が十分な予算措置をすることができなかったこと、公社が行財政に依存した運営をしてきたこと、市と公社にビジネスのノウハウがなかったことから、来園者を増やす取り組みが不充分で、収益を向上させることができなかった。市も公社も動物公園を経営する認識が低く、経営のための人材を育成してこなかったため」と分析。民間活力と民間資本を導入して動物公園の経営改善を目指すことを決断しました。

その結果、公社は令和元年度（2019年度）末で解散し、新会社に運営を移行することにし、その新会社「株式会社もりおかパークマネジメント」は元年7月に設立されました。

市は、公募の結果採用した株式会社オガールの案をベースに、再生事業計画を策定。それによると、2年度（2020年度）から、動物公園のリニューアルを進めます。コンセプトは「人と動物と自然が共生する動物公園～人と動物が参加する新しい福祉の形」。①プロローグ・エピローグ②里山に生きる③高原の営み④母なる大地―の4つのゾーンに分け、楽しさ・ワクワク感が途切れない動物公園に造り変えます。

新たなランドスケープ（景観）を創造する一方、老朽化した獣舎は動物の姿が魅力的、効果的に見えるような展示方法に変えた獣舎に修繕。セミナーハウス・レストハウスの改修などを行います。

将来的には、保育園や障害者就労支援施設なども整備し、経営強化を図る方向です。

編集後記

平成31年（2019年）４月、盛岡市動物公園が開園30周年を迎えたのを機に、記念誌を作ることになりました。動物公園は、家族ぐるみで楽しめる憩いの場であると同時に、本物の動植物を目にすることで命の尊さ、豊かな自然の大切さを学べる社会教育施設です。記念誌では、来園者の目を楽しませてきた動物たちや動物公園を支えてきた職員たちの働きぶり、園内で繰り広げられてきた活動を紹介しようと考えました。

一方、動物公園の管理運営をしてきた盛岡市動物公園公社は、令和２年（2020年）３月をもって解散することが決まっていました。従って、記念誌は記録誌の意味も併せ持っており、動物公園で起きたあれこれを振り返る「主な出来事」にページのほぼ半分を割くことにしました。

作業を進める中、一番の難題だったのは掲載する写真を見つけ出すことでした。動物公園内にある飼育管理事務所の資料室などでポジ・ネガフィルムを１枚１枚、１カットずつチェックしました。しかし、動物たちを撮ったものが圧倒的に多く、「出来事」を示す写真がなかなか見つかりませんでした。盛岡市広聴広報課に助けを求め、フィルムやデジタル化されたデータからも探しました。それでも、１、２枚しかない年度がありました。

主な出来事は、広報もりおかや岩手日報からも引用させていただきました。寄稿もしていただきました。御協力いただいた方々に心から感謝申し上げます。この記念誌を通じ、盛岡市動物公園に対する愛着がさらに深まることを願っています。

記念誌編集班

盛岡市動物公園開園30周年記念誌
令和２年３月１日発行

発行／公益財団法人 盛岡市動物公園公社
〒020-0803 岩手県盛岡市新庄字下八木田60-18
TEL.019-654-8266
印刷／永代印刷株式会社
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-8-30
TEL.019-636-0011㈹　FAX.019-636-0099



わんぱく広場の「妻夫桜」


盛岡市動物公園